

+++++

## 「植物と人々の博物館メールマガジン」 第22号 2016年11月9日発行

+++++

小菅村も紅葉と共にいよいよ秋が深まり、初霜も降りて冬の匂いがしてきました。遅ればせながら、ニンニク、小麦、エンドウ豆などを播きました。家庭用精米機（雑穀汎用）2台、製粉機1台を購入して、製粉までできるようになり、ほうとうやピザまで作りました。脱穀がたいへんなので、麦作はやめようと思ったのですが、穀物の加工・調整・調理にまで自給の試みの可能性が広がったので、パン小麦だけは播種しました。大麦は西原の水車で搗精していただいていますので、近い機会にお送りします。

縄文人が使っていた畑をお借りしていますが、この畑のうずらまめ（ヒヨット）在来品種の変異は素晴らしく美しいです（写真1）。小さな畑に4品種識別されています。冬菜や蒟蒻など、ほとんど自然農法です。

イタリアに小旅行をして、ルネサンスの絵画・彫刻・建築など、本物を見ることができました。「最後の晚餐」や「最後の審判」はぜひ自分で見たかったのです。この時代から学び、これからの真文明のありかた、再ルネサンスを考えてみたいと思いました。大聖堂のフレスコ画にキビやアワなどの穀物が描かれていないか、首が痛くなるほど、天井や壁面を観察したのですが、よく似たものが描かれていました（写真2：ストロボなし撮影は許可）。もちろん、bioのキビや二粒小麦は買って帰りましたが（写真3）、やっと見つけた美味しそうなトマト3品種の種子は成田空港の植物検疫で没収されてしまい、残念でした。アーティチョークやチコリ、ズッキーニなどは許可されました。今月からはズッキーニも不許可になるとのことでした。早速、レタスとチコリはプランタに播き、良く育っています。

会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。なお、自然文化誌研究会の全体の活動は「ナマステ」でお知らせしています。ご関心のあるご友人に転送などでご紹介いただき、「辺境」の地道な活動に薄情な「マスコミ」や「ギョウセイ」ではなく、顔見知り信頼の「口コミ」で転送伝達していただけると嬉しいです。連絡先は下記メールアドレスです。

**展示解説・作業予定日：18日（金）、26日（土）、12月2日（金）、16日（金）、22日（木）の予定です。**

農閑期になりますので、森とむらの図書室（小菅・藤野）の蔵書整理、公民館エントランスの展示更新などします。藤野分室の図書整理は民族植物学ゼミのメンバーと12月1日（木）にします。こちらの方はお百姓くらぶに愛用していただければ幸いです。

年に1日、月に1日でも、未来への遺産である民具や図書の整理をご一緒していただければありがたいです。参加希望者は木俣にメールしてください。[kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

### ○報告

#### 1. ラジャバト大学プラナコンからTJクラブ環境学習巡検が来ました

日時：10月8日（土）から15日（土） 場所：主に小菅村。参加者：ラダワン先生やシリワット先生他7名。タイの展示を追加整理していただいています。

2. シンポジウム「農山村の環境と生活文化から学ぶ都市との交流」（現代文明の移行と伝統知・生業 ～第39回環境学習セミナー）の企画準備状況（企画につき良いアイデアがありましたら、お知らせください。）今後、詳細はHPに掲載します（<http://www.milletimplic.net/college/seminar39>）。10月23日（日）に藤野世話人会で「藤野の街歩き」などについて打ち合わせをしました。

#### 3. 日本村塾ゼミ／自給農耕ゼミ第7回

日時：10月23日（日）午前10～午後3時。内容：午前中、アワの収穫作業、藤野倶楽部百笑の台所で昼食、午後、無形の家にあるシードバンクと図書（藤野分室）の見学などをしました。参加者は延べ9名でした。藤野倶楽部百笑の台所の参鶏湯はとてもおいしかったので、持ち帰り、家族にも人気でした。

4. 芋煮会 11月5日（土）、小春日和の穏やかな一日を武蔵野公園で、彩色園農場仲間と芋煮会で過ごしました。自作のサトイモの味を褒められて（味付けが良かったのでしょう）、うれしかったです。有機・無農薬「雑

穀街道」ブランドのサツマイモやサトイモは知人にお土産で差し上げ（押しつけですが）、喜ばれています。

## ○予定

### 1. 日本村塾ゼミ

ご意見、ご要望をお知らせください。

1) 自給農耕ゼミ第8回 日時：11月27日（日）

場所：藤野／篠原の里ほか

内容：午前中、雑穀の加工調整・調理など、午後、読書会など。

参考図書：①デビット・ホルムグレン 2002（リック・タナカほか訳 2012）パーマカルチャー—農的暮らしを実現するための12の原理／上・下／上・下、Commons、東京。②ビル・モリソン／レニー・ミア・スレイ 1991（田口恒夫・小祝慶子訳 1993）、パーマカルチャー—農的暮らしの永久デザイン、農文協、東京。

2) 民族植物学ゼミ第4回 日時：12月1日（木） 藤野倶楽部・無形の家図書室で、原沢文庫の整理など。

3) 扶桑図ゼミ第3回； 希望者があれば、くにとは何かや日本国憲法についてテキストをもとに話し合ってみたいと思います。

### 2. 雑穀についての講義・研究会予定（参加は歓迎のようです）

1) 11月26日（日）、13時から、保健センター研修室、山梨県上野原市。栄養士研修会「長寿村柵原の食文化遺産を継承する雑穀街道」

2) 12月8日（木）、宮崎県椎葉村、椎葉焼畑研究会「山村の暮らしを支えた麦・雑穀」仮題。（要旨）都市民は自然から離れて、生活の知恵や技能を忘れてしまった。山村民の暮らしから学び、自ら生きるための食材を知り、豊かな食生活を取り戻すべきだ。山村民は伝統的な生活文化の知識体系を継承し、都市民に学びの場を与えてほしい。

3) 2017年1月7日（土）、13時から、緑と水の市民カレッジ講習室、千代田区日比谷公園。東京都公園協会、緑と水の市民カレッジ講座、「目から鱗の雑穀の世界」

4. 伝統知研究会は、12月8日に神田のエコプラス事務所で行います。

5. 民族植物学第10号は編集が進んでいます。でき次第、希望者にはお送りします。なお、第11号の原稿締め切りは2017年3月末予定です。ご寄稿をお待ちしています。環境学習セミナーの報告、九州の雑穀栽培、信仰論などを準備しています。

6. 『雑穀のインド亜大陸』は2017年3月を完成目標に、個人（主語私）の実経験をまじえながら、自由に書いています。未定稿ですが順次章ごとに公開していきます。下記の個人ホームページから引用して下さる場合は、「木俣美樹男（2016未定稿）」として下さるようお願いいたします。

\*\*\*\*\*

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミューゼス研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

連絡先・相談係：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

公式HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

写真 1. ウズラマメのさやの変異



写真 2. フレスコ画に描かれている穀物様の絵。



写真 3. キビと二粒系エンマー小麦 *Triticum dicoccum*

